

美里町病院事業新改革プラン

令和 2 年度点検・評価

令和 4 年 1 月

美里町立南郷病院運営委員会

1 収支計画と決算状況

(1) 令和2年度収益的収支(単位:円)

区分		計画	決算	比較(※)
収入	1. 医業収益 a	524,042,000	420,596,165	△103,445,835
	(1) 料金収入	436,429,000	337,500,996	△98,928,004
	入院収益	269,104,000	207,983,846	△61,120,154
	外来収益	167,325,000	129,517,150	△37,807,850
	(2) その他	87,613,000	83,095,169	△4,517,831
	うち他会計負担金	36,294,000	36,294,000	0
	うち基準内繰入金	36,294,000	36,294,000	0
	2. 医業外収益	193,622,000	204,069,729	10,447,729
	(1) 他会計負担金	149,566,000	149,804,000	238,000
	うち基準内繰入金	149,566,000	149,804,000	238,000
	(2) 他会計補助金	14,140,000	13,902,000	△238,000
	(3) 国(県)補助金	—	11,112,000	11,112,000
	(4) 長期前受金戻入	28,416,000	28,316,000	△100,000
	(5) その他	1,500,000	735,729	△764,271
	経常収益 (A)	717,664,000	624,665,894	△92,998,106
支出	1. 医業費用 b	678,418,000	652,592,748	△25,825,252
	(1) 職員給与費 (K)	313,596,000	384,076,237	70,480,237
	基本給	146,544,000	138,841,600	△7,702,400
	その他	167,052,000	245,234,637	78,182,637
	(2) 材料費	85,510,000	62,968,472	△22,541,528
	うち薬品費	52,551,000	32,157,504	△20,393,496
	(3) 経費	120,520,000	120,377,612	△142,388
	うち委託料	70,176,000	73,443,766	△3,267,766
	(4) 減価償却費	47,987,000	50,918,960	2,931,960
	(5) その他	110,805,000	34,251,467	△76,553,533
	2. 医業外費用	32,646,000	31,119,221	△1,526,779
	(1) 支払利息	13,679,000	12,842,208	△836,792
	(2) その他	18,967,000	18,277,013	△689,987
	経常費用 (B)	711,064,000	683,711,969	△27,352,031
経常損益(A)－(B) = (C)		6,600,000	△59,046,075	△65,646,075

※比較の△表記は、決算が計画に対して不足する金額を示す。

区分		計画	決算	比較 (※)
特別損益	1. 特別利益 (D)	—	4,000,000	4,000,000
	2. 特別損失 (E)	—	4,000,000	4,000,000
	特別損益 (D)－(E)＝(F)	—	0	0
純損益 (C) + (F)		6,600,000	△59,046,075	△65,646,075
累積欠損金 (G)		525,265,000	558,475,583	33,210,583
流動資産		197,825,000	168,528,100	△29,296,900
うち未収金		67,646,000	71,106,166	3,460,166
流動負債		156,421,000	164,203,888	7,782,888
うち未払金		35,553,000	35,091,442	△461,558
単年度資金収支額 ＝（前年度流動負債－前年度流動資産）－ （当年度流動負債－当年度流動資産） ※翌年度繰越財源なし		△12,718,000	△78,649,841	△65,931,841
累積欠損金比率(G)／a×100		100.2%	132.8%	
医業収支比率 a／b×100		77.2%	64.5%	
経常収支比率(A)／(B)×100		100.9%	91.4%	
職員給与比率(K)／a×100		59.8%	91.3%	

※比較の△表記は、決算が計画に対して不足する金額を示す。

一般会計等からの繰入金の見通し	計画	決算	比較 (※)
収益的収支	200,000,000	200,000,000	0

※比較の△表記は、決算が計画に対して不足する金額を示す。

収益的収支の評価：3 達成できなかった
経常収益では、新型コロナウイルス感染症の世界的流行の影響を受け、患者数の減少が避けられなかったことから、入院収益及び外来収益は計画値を大きく下回り、医業収益全体としても計画値を大きく下回った。経常費用全体で費用の計画値を抑制することはできたが、令和2年度からの制度改正により、これまでの非常勤職員は会計年度任用職員に改められ、期末手当の支給等により職員給与費を押し上げることに至った。経常損益において、目標としていた黒字を達することができなかったが、赤字を生じさせないこと、増やさないことが目標であり、次年度以降も職員全体で費用の抑制に努める。

※3段階評価（1 達成できた 2 概ね達成できた 3 達成できなかった）

(2) 令和2年度資本的収支（単位：円）

区分		計画	決算	比較（※）
収入	1. 企業債	20,000,000	17,000,000	△3,000,000
	2. 他会計出資金	—	—	—
	3. 他会計負担金	58,899,000	60,478,000	1,579,000
	うち基準内繰入金	58,899,000	60,478,000	1,579,000
	4. 他会計借入金	—	—	—
	5. 他会計補助金	—	—	—
	6. 国（県）補助金	—	1,905,000	1,905,000
	7. 工事負担金	—	—	—
	8. 固定資産売却代金	—	—	—
	9. その他	—	—	—
	収入計 (a)	78,899,000	79,383,000	484,000
	うち翌年度へ繰り越される支出の財源充当額(b)	—	—	—
	前年度許可債で当年度借入分 (c)	—	—	—
	純計(a)－{(b)+(c)} (A)	78,899,000	79,383,000	484,000
支出	1. 建設改良費	20,000,000	21,424,700	1,424,700
	2. 企業債償還金	98,125,000	101,281,463	3,156,463
	うち建設改良のための企業債分	98,125,000	101,281,463	3,156,463
	3. 他会計長期借入金返還金	—	—	—
	4. その他	—	—	—
	支出計 (B)	118,125,000	122,706,163	4,581,163
差引不足額(B)－(A)＝ (C)		39,226,000	43,323,163	4,097,163
補てん財源	1. 損益勘定留保資金	39,226,000	43,323,163	4,097,163
	2. 利益剰余金処分別	—	—	—
	3. 繰越工事資金	—	—	—
	4. その他	—	—	—
	計 (D)	39,226,000	43,323,163	4,097,163
補てん財源不足額(C)-(D)＝ (E)		0	0	0
企業債残高		351,788,000	344,571,497	△7,216,503

※比較の△表記は、決算が計画に対して不足する金額を示す。

一般会計等からの繰入金の見通し	計画	決算	比較（※）
資本的収支	58,899,000	60,478,000	1,579,000

※比較の△表記は、決算が計画に対して不足する金額を示す。

資本的収支の評価：2 概ね達成できた

※3段階評価（1 達成できた 2 概ね達成できた 3 達成できなかった）

2 病院の現状

(1) 病床数と診療科目

種別	令和元年度末	令和2年度末
病床数	一般50床	左に同じ（変更なし）
診療科目	5科目（内科、外科、小児科、眼科、整形外科）	左に同じ（変更なし）

病床数と診療科目の評価

医師と看護師の確保に努め、病床数と診療科目を令和元年度と変わらない体制を維持することができた。

(2) 経営形態と決算状況

種別	令和元年度末	令和2年度末
経営形態	地方公営企業法財務適用	左に同じ（変更なし）
決算状況	純損失 2,737,878 円(詳細は省略)	「1 収支計画と決算状況」のとおり

経営形態の評価

地方公営企業法の財務適用から全部適用に変更する理由がなく、財務適用を維持した。

(3) 職員配置

種別	令和元年度末	令和2年度末
職員配置の実績	正規職員 33 人 非常勤職員 18 人（実人数） 臨時医師 2.92 人(常勤換算) （詳細は省略）	正規職員 会計年度任用職員※ 詳細は「別表1」のとおり

※令和2年度から制度改正により、「非常勤職員」は「会計年度任用職員」に改められたことから、表示を変更しています。

職員配置の評価：2 概ね達成できた

医師と看護師の確保に努め、あらゆる任用形態を活用しながら必要職員数を確保することができた。他の職種においても、医療サービスの提供に不足が生じない体制を維持することができた。

※3段階評価（1 達成できた 2 概ね達成できた 3 達成できなかった）

別表1 令和2年度職員配置の目標と実績

職種	雇用形態	目標	実績 (※)	実績の説明
医師	正規	2人	2人	
	臨時	2人	0人	制度改正に伴い、正規を除くすべての医師を会計年度任用職員として採用
	会計年度任用職員	1人	3.7人	一日の勤務時間を8時間として換算した数
看護師	正規	17人	16人	
	会計年度任用職員	2人	3.6人	一日の勤務時間を8時間として換算した数 (週37.5時間勤務1人) (週35時間勤務2人) (週30時間勤務1人)
准看護師	正規	8人	7人	
	会計年度任用職員	2人	1.3人	一日の勤務時間を8時間として換算した数 (週35時間勤務1人) (週15時間勤務1人)
看護補助員	会計年度任用職員	8人	6.3人	一日の勤務時間を8時間として換算した数 (週35時間勤務7人)
診療放射線技師	正規	1人	1人	
臨床検査技師	正規	2人	2人	
	会計年度任用職員	1人	0.4人	一日の勤務時間を8時間として換算した数 (週15時間勤務1人)
薬剤師	正規	2人	2人	
管理栄養士	正規	1人	1人	
事務職	正規	3人	3人	
	会計年度任用職員	1人	0.5人	一日の勤務時間を8時間として換算した数 (週20時間勤務1人)
労務職	会計年度任用職員	1人	0.4人	一日の勤務時間を8時間として換算した数 (週15時間勤務1人)

※年度末時点での配置状況を基に算出

3 医療機能数値目標

(1) 患者数

区分	令和元年度	令和2年度		
	実績	目標	実績	目標に対する増減
救急	6 6 5 人	8 2 5 人	3 8 1 人	△ 4 4 4 人
外来	1 8, 9 1 5 人	2 4, 2 5 0 人	1 8, 7 1 8 人	△ 5, 5 3 2 人
入院	1 3, 3 3 0 人	1 3, 3 2 2 人	1 1, 5 6 2 人	△ 1, 7 6 0 人

- ・救急の人数は、時間外・深夜、土・日曜日、祝日、年末年始の延患者数。
- ・外来の人数は、時間内救急患者、眼科、人間ドック、健診、予防接種等を含む延外来患者数。
- ・入院の人数は、延入院患者数。

(2) 目標とした患者数を受入するための標準医師数と標準看護職員数

区分	令和2年度		
	標準数	実績数	標準数に対する増減
医師数	3. 5 5 人	5. 7 人	2. 1 5 人
看護職員(看護師及び准看護師)	1 2. 8 人	2 7. 9 人	1 5. 1 人

- ・標準数には、届出を行った施設基準や救急医療体制に必要なとなる人員は含まれていない。

(3) 人口の推移に関する参考資料

①美里町の人口（美里町町民生活課：美里町行政区別人口一覧表より）

基準日	美里町全域	旧南郷地域	旧小牛田地域
令和2年4月1日	2 4, 2 8 5 人	5, 4 2 8 人	1 8, 8 5 7 人
令和3年4月1日	2 4, 0 9 8 人	5, 3 1 8 人	1 8, 7 8 0 人

②当院を中心とした半径5km以内の人口（総務省統計局ホームページ e-Stat：GIS機能より抽出）

基準年	抽出人口	備考
平成22年	1 9, 2 6 1 人	国勢調査による統計データを基に、条件を選択して抽出した人口
平成27年	1 8, 4 5 3 人	

医療機能数値目標の評価：3達成できなかった

患者数は、救急患者数、外来患者数、入院患者数のいずれも目標数を達成することができなかった。目標数を達成できなかった要因は、新型コロナウイルス感染症の世界的流行の影響を受け、受診控え等によるものと思われる。目標の達成は必要と思われるが、地域住民が医療を必要とした時に、医療体制に不足が生じないよう職員を確保しておくことが最も重要である。職員は十分に確保していたことから、地域では数少ない発熱外来を整備することができ、新型コロナウイルス感染症のPCR検査等を実施し、地域医療を支えることができた。

※3段階評価（1達成できた 2概ね達成できた 3達成できなかった）

4 経営の効率化（使用電力量の抑制）

（１）令和２年度使用電力量の目標と実績

使用電力量の目標値	使用電力量の実績値
４２４，９６６ｋｗｈ (一月当たり平均３５，４１３ｋｗｈ)	４８３，２８９ｋｗｈ (一月当たり平均４０，２７４ｋｗｈ)

（２）令和２年度月別使用電力量実績と平均値超過量

月	使用量実績	目標一月当たり平均超過量	実績一月当たり平均超過量
４月	３８，８９９ｋｗｈ	３，４８６ｋｗｈ	△１，３７５ｋｗｈ
５月	２６，３５１ｋｗｈ	△９，０６２ｋｗｈ	△１３，９２３ｋｗｈ
６月	２４，５４２ｋｗｈ	△１０，８７１ｋｗｈ	△１５，７３２ｋｗｈ
７月	２６，１０５ｋｗｈ	△９，３０８ｋｗｈ	△１４，１６９ｋｗｈ
８月	３２，１２８ｋｗｈ	△３，２８５ｋｗｈ	△８，１４６ｋｗｈ
９月	３５，８６２ｋｗｈ	４４９ｋｗｈ	△４，４１２ｋｗｈ
１０月	２４，６５２ｋｗｈ	△１０，７６１ｋｗｈ	△１５，６２２ｋｗｈ
１１月	３６，６９５ｋｗｈ	１，２８２ｋｗｈ	△３，５７９ｋｗｈ
１２月	５３，２９９ｋｗｈ	１７，８８６ｋｗｈ	１３，０２５ｋｗｈ
１月	７２，４８５ｋｗｈ	３７，０７２ｋｗｈ	３２，２１１ｋｗｈ
２月	６６，５８６ｋｗｈ	３１，１７３ｋｗｈ	２６，３１２ｋｗｈ
３月	４５，６８５ｋｗｈ	１０，２７２ｋｗｈ	５，４１１ｋｗｈ

（３）令和２年度宮城県鹿島台の平均気温資料（気象庁のホームページより）

月	平均気温	最高気温平均	最低気温平均
４月	８．７℃	１３．９℃	２．９℃
５月	１５．６℃	２１．２℃	１０．９℃
６月	２０．３℃	２５．１℃	１６．６℃
７月	２０．９℃	２４．１℃	１８．７℃
８月	２５．４℃	３０．２℃	２１．９℃
９月	２１．４℃	２６．０℃	１８．０℃
１０月	１３．７℃	１９．０℃	８．６℃
１１月	８．３℃	１４．５℃	１．９℃
１２月	１．３℃	５．８℃	－３．７℃
１月	－１．２℃	３．２℃	－６．６℃
２月	１．５℃	７．３℃	－３．８℃
３月	６．７℃	１２．７℃	０．３℃

経営の効率化（使用電力量）の評価：3達成できなかった
「経営の効率化」として、使用電力量の抑制を目標に掲げていたが、年間の使用量実績は、令和元年度に続き目標を超過する結果となった。 令和2年度の年間使用電力量は、目標の424,966kwhに対し、実績が483,289kwhであり、実績を前年度比較した場合で、30,507kwhの増加であった。 令和2年度の使用量を月別で確認したところ、増減の傾向が前年度と同様に6月が最も低く、7月と9月が前年度より増加していた。また、冬季の使用量は大きく、平均気温が10℃を下回る月の厳しい冷え込みが考えられる。 なお、令和2年度は新型コロナウイルス感染症が世界的に流行し、感染拡大防止のため定期的な換気強化を実施したことから、冷暖房効率は悪化することとなり、終息の見通しがない現状ではエアコンの使用電力量抑制が困難な状況となっている。 厳しい冷え込みが施設全体を冷やすのに対し、空調に採用しているエアコンで適正な温度を保つには、相当の電力量が必要であるものと考えられる。冬期間の使用電力量を抑制する手段として、施設の断熱効果の改善が考えられ、容易にできる取組みとして、窓ガラスへの防寒シートの設置を平成30年度から引き続き実施しており、エアコンの効率を高めるため、フィルター清掃の回数を増やす取組も令和2年度から実施している。

※3段階評価（1達成できた 2概ね達成できた 3達成できなかった）

5 地域医療構想を踏まえた役割及び再編・ネットワーク

令和2年度連携医療機関実績

連携先医療機関の所在	連携先医療機関の数	診療情報の提供（当院から医療機関等への紹介等）件数	情報提供の受入（医療機関等から当院への紹介等）件数
美里町	6 (9)	95 (90)	111 (132)
涌谷町	6 (6)	38 (39)	53 (55)
大崎市	27 (23)	167 (208)	191 (233)
栗原市	1 (2)	0 (0)	1 (2)
石巻市	10 (5)	48 (57)	78 (77)
東松島市	4 (6)	39 (48)	61 (60)
登米市	1 (1)	0 (0)	1 (1)
塩釜市	1 (1)	1 (0)	0 (1)
仙台市	19 (24)	15 (20)	41 (54)
名取市	1 (0)	1 (0)	2 (0)
大衡村	1 (0)	1 (0)	0 (0)
女川町	1 (0)	0 (0)	1 (0)
加美町	1 (0)	0 (0)	1 (0)
大郷町	1 (0)	1 (0)	0 (0)
県外、その他施設等		9 (33)	5 (9)
合計		415 (495)	546 (626)

() 内の数値は前年度実績のもの。

連携医療機関の評価：2 概ね達成できた
「美里町病院事業新改革プラン」の「地域医療構想を踏まえた役割」では、「具体的将来像」として医療機関等との連携が重要としており、これまで以上の連携を進めることとしています。 また、「再編・ネットワーク」では、「現在の状況」と「医療圏内の病院等配置の現況」で連携状況を記載しています。 これら連携の実績として、令和2年度の患者紹介状況を分析した結果、連携先の範囲は、美里町が含まれる大崎・栗原医療圏のほかに、近隣の石巻市や東松島市など県内の広範囲にあったことを確認できた。 患者が一日も早く回復できるように、医療機関が相互に連携して、それぞれが持つ医療資源を最大限に活かし、安定した医療体制を構築できるよう引き続き連携に努めることとする。

※3段階評価（1 達成できた 2 概ね達成できた 3 達成できなかった）

6 総合評価

令和2年度総合評価
「美里町病院事業新改革プラン（以下、本プランという。）」の取組み最終年となるが、収支計画では、令和元年度に続き経常損益での赤字となった。 医療機関等との連携状況については、宮城県内の広範囲において、専門の医療機関で質の高い医療を受けられるよう連携を継続して進めてきた。 平成28年11月に宮城県が策定した地域医療構想では、人口構造の見通しや今後必要とされる医療機能別の病床数等が示されており、本プランの点検では、人口減少といった地域の実情を確認することができた。地域の人口減少については、外来患者数の減少を加速させる要因の一つとして捉えることができ、不採算地区病院の環境として、さらに厳しいものと考えられる。 また、当院では、これまで医療機能を急性期としていたが、急性期から回復期に医療機能の見直しを行い、地域医療構想会議で承認を受け、令和2年12月から回復期に変更した。医療機能を変更したとしても、当院の置かれた役割として、急性期や慢性期といった患者の受入も必要とならざるを得ない状況に変わりはない。 令和2年度は新型コロナウイルス感染症が世界的に流行し、専用病床の確保や検査体制の拡充が必要とされた。当院では、公立病院としての使命である地域に必要な医療を公平・公正に提供し、町民の生命と健康を守り、地域に貢献することが重要であるとの考えを基に、近隣では数少ない発熱外来を整備し、新型コロナウイルス感染症のPCR検査等を実施した。 一般会計からの繰入金については、本プランの収支計画に基づき、令和2年度の実績が収益的収支で2億円となっており、支出の大きな財源となっている。収益的収入は、外来収益や入院収益といった医業収益が基本となるが、その収入だけで支出を賄うことができないため、一般会計からの繰入金を大きな財源としている。 赤字を発生させない取組は引き続き必要であると考えられるが、公立病院を運営していく上では、地域の実情に応じて不採算となった医療体制に対して、一般会計からの繰入金が重要である。令和2年度は経常損益での大幅な赤字が生じたため、弾力的に繰入の増額を実施すべき年度であったと考えられる。